



霞ヶ関中だより

＜学校教育目標＞自主の誇りをもち、未来を拓く力を持った生徒の育成
＜10月の生活のめあて＞前期を振り返り、後期の目標を立て頑張ろう

11月号 令和7年11月7日（金）



感動的な行事に

校長 守岡 信一

11月12日（水）に校内合唱コンクールを開催します。会場はウェスタ川越です。生徒たちは音楽の授業と学級練習を一生懸命に行ってきました。実行委員さん、指揮者、伴奏者など、生徒主体の活動を行い、学級の絆がさらに深まったように思います。

合唱はここまで学校生活の結晶のようなものです。一人一人が本番でも輝けることを願って生徒たちに次のような話をしました。（11月4日・学校朝会にて）

合唱コンクールが来週に迫ってきました。

私はみなさんに感動的な合唱コンクールをつくり上げてほしいと思っています。

感動的な合唱にするためには、一人一人が自分たちの歌に「心を込める」と大切だと思います。

しかし、歌を歌うときに「心を込める」とは、とても難しいことだとも、私は思っています。

私の知り合いに、歌を歌う仕事をされている方がいて「心を込めて歌うのにはどうすればいいんですか」と聞いたことがあります。その方は、2つのことを教えてくれました。

一つは「相手」なのだと思います。歌を届ける相手、つまり「誰のために歌うのか」が大切だと話していました。その歌手の方は「目の前のファンの方々」と「自分を今まで支えてくれた人たち」のために歌っているそうです。みんなは「誰のために歌う」のでしょうか。

二つ目は「メッセージ」だと言っていました。「歌を通して何を伝えるのか」と言っています。その方は、「感謝の気持ち、ありがとう」だと言っていました。自分がステージに立って歌えるのは、応援してくれる方々のおかげだから、歌を通して「ありがとう」を伝えるんだと話してくれました。みんなは「どんなメッセージを伝える」のでしょうか。

コンクールで賞を獲ることはうれしいことだと思いますが、私は行事は結果だけではなく、それに向かう過程にこそ大きな意味があると信じています。私は、皆さんのが合唱コンクール後にたとえ賞がなくても、「このクラスで歌えて良かった」と思えるといいなと、心から思っています。